

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	設計事務所（経営者）	販売量の動き	・公共事業の業務増加に伴い、当社や関係会社の受注が増え、景気が上向いている印象である。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年、暑くなってくれば、徐々に人の出が良くなる。今後にも期待している。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・とにかく暑いため、冷たい商材である、アイスやアイスコーヒー、氷等が売れている。来客数は、数か月前よりは上回っている。
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・客単価が向上している。客が値上げに慣れてきたというより、諦めた様子が見受けられる。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車購入時にあった環境性能割の廃止や新型車効果もあり、新車販売が順調に伸びている。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年の春は中東情勢や円安の不安からか、旅行の動きが鈍かった。現在も同様の情勢不安があるにもかかわらず、生活が安定しているため、旅行をする雰囲気回復している。前年は6月から猛暑だったため、避暑地である当館への予約の動きが早かったが、今年は動きが遅く、かなり心配していた。7月中旬から暑くなったため、急激に予約が増加している。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・景気はやや良くなっている方向だと考える。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・止まらない物価高、原材料価格の高騰もあるため、その都度販売金額を改定しているものの、来客数への影響はさほどない。また、1人当たりの購入も落ちているわけではないため、結果として価格の変更分だけ良くなっている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・7月はホテルでビヤガーデンを開催している。前年より3%値上げしたが、前年とほぼ同じ収容人数、集客数で、その分、売上も増加している。また、花火大会の開催に合わせて料金を5%上げたが、前年よりも早いペースで7月中旬に販売できている。
	○	タクシー（経営者）	販売量の動き	・7月に入り、客の動きがかなり良くなっている。
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・テレビサービスは引き続き好調を維持している。サッカーワールドカップ等のイベントの影響もあるとみているが、以前と比べると需要が高まっている印象を受ける。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・2027年の省エネ基準の変更や猛暑の影響により、エアコンの売上は好調である。ただし、需要の前倒しのため、景気に関わっているとは判断しにくい。必要に迫られての消費には限界がある。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・イベントなどでお金を使う以外の買物は、単価を抑えてまとめ買いする傾向にあり、来店頻度は低下している。
	□	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・少なくとも、客の財布のひもが緩んでいる様子はない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上は横ばいで、来客数は増加しているものの、販売量が増えていない。1人当たりの客単価はここ3か月減少している。

□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・競合店がようやくオープンしたため、影響を受けて今月は若干落ちている。今年は梅雨が梅雨らしく終わったので、梅雨明け後にぐっと気温が上がり、気候の変化の対応で若干良くなったものの、総じて変わらない。
□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・前月に夏物需要を先取りしていたため、売上が低迷している。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備に関しては目標をクリアしているものの、車両販売は今月も低迷している。あらゆる部品価格が上昇しているが、入手できればまだ仕事につながるところ、油脂関係の仕入れが難しく、仕事に影響が出ている。

	□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・止まらない物価高に収入増加が伴わない現実には、消費意欲は低い。
	□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・動きの鈍さを実感している。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・客の財布のひもが非常に固い。1番の原因は物価高だとみているが、夜の街を歩いている人の数が本当に減っており、コロナ禍の頃みたいである。ただし、値上げはしやすくなっているため、利益はそれなりに出せているが、将来に希望は持てない。
	□	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク同様に夏休みも客足が鈍く、予約や旅行消費が低下している。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・物価が上がっているが、特に食料品の値上がりにより、やや厳しい状態である。
	□	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光客数が伸びない。1泊2日のツアーや登山者は多いものの、お金を落とさないため、売上も伸びない。
	□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・団体利用が例年より少なかったが、一般客が好調である。今月後半は夏休みに入るが、期待したほど来客数は増えていない。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・連日の猛暑続きで、昼間の人出が極端に少なくなっている。
	▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・安定しない中東情勢や原油価格の高騰、円安、原材料価格の高騰等による値上げラッシュで、末端の小売業にはかなりの逆風が吹いている。6月にクリアランスセールの前倒しもあったが、衣料品は苦戦している。お中元商戦も芳しくない状況だが、インテリア、家電、美術、呉服は堅調に推移している。
	▲	百貨店（店長）	販売量の動き	・夏のクリアランスセールは天候の影響もあるが、勢いが無い。特に、セールのスタートが厳しかった。
	▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年は猛暑と空梅雨で、今年はまだ梅雨明けしていない。前年の今頃は備蓄米のほかに県産米も確保できていたため、売上を押し上げていた。現在の米価の低下は売上を直撃している。
	▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比では売上は2%減少、来客数は10%減少している。来客数は少なくなっていると実感しているものの、配達作業が忙しく、余り心配はしていない。8月から新規で高齢者施設への納品が始まるため、1か月後にどのくらいの納品額になるか楽しみである。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前月と変わらず、毎週値上げ商品が追加されている状況である。賃金は上がったものの、可処分所得が増えていないことが原因で消費は増えていない。
	▲	自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・中東情勢の長期化により、オイル関係の供給が不足したり不安定であるため、販売量が伸び悩んでいる。
	▲	その他専門店〔酒〕（店長）	来客数の動き	・7月の売上は前年よりも当然増えているが、令和8年熊本地震の衝撃が大きく、来客数が急激に減少している。特定の客の売上が、売上全体を押し上げている形で、非常に雰囲気は良くない。
	▲	ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・何となく停滞感が拭えず、伸びてこない。
	▲	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・物価高騰は収まる様子がなく、また、気温が高すぎるせいもあるのか、来場客数が伸びない。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑といわれる暑さのせいもあるだろうが、昼間は街に人影が全くない。この先どうなるか不安である。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	来客数の動き	・ターミナル駅前の魅力が低下しており、悪くなっている。
	×	遊園地（職員）	来客数の動き	・週末の雷雨や猛暑の影響により、来園者数は伸び悩んだものの、インバウンドの受入れや夏季イベントの開幕を周知し、夏休みシーズンに向けて集客を図っている。
企業動向関連	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・見積り依頼が増えており、西日本からの客との新規取引につながり始めている。

(甲信越)	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は前月同様にあり、見積案件も含め増加傾向にあるため良くなっている。一方、一部の部品で納期遅れが発生しているため、滞るおそれもある。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・催事を行った結果、集客、売上共に前年比50%増加している。別の催事でも集客、売上いずれも僅かではあるものの前年を上回っている。どのような理由で状況が改善したかは分からないが、単価も上がっていることから、売上増加につながったのではないかとみている。ただし、一部の催事の好調さに反して、通常の卸やルートセールスでは相変わらず顧客の仕入意欲が乏しく、厳しさを増している。今後はB to BからB to Cへの傾向が高まるとみている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量に大きな変化はないものの、物品の値上がりや配達の遅延が気掛かりである。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業は、堅調なAIサーバー向け部品のほか、IT関連でも持ち直しがみられる。非製造業は観光関連で需要は底堅さを維持しているが、消費関連では節約志向の影響が広がっている。
	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・インバウンドに関連する業種は、売上の回復を確認できている。しかし、中東情勢の不安定さによる影響を受ける業種も多く、総合的に勘案すると変わらない。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・特注品の納品が済み、生産は店頭商品の受注に移行しているため、受注量が減少している。
	▲	輸送業（経営者）	競争相手の様子	・取引先の出荷量が減少している。
	×	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・大手との販売価格が開いているため、これ以上値上げをするとスーパーでは売れなくなる。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数が増えている。新規求人数は前年同月比20.6%増加となっている。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求職者の条件に偏りがある。情報だけが氾濫しており、どこに応募したのか忘れている方も多い状況で、適任者を探すのがこれまで以上に難しくなっている。世界情勢が生活に直結していることから、景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造業は復調の兆しがみられる一方、人手不足が依然として制約となっている。また、半導体関連事業では新規事業を中心に求人数が増加しており、堅調な需要がうかがえる。しかし、中東情勢の不透明感が更に増していることから、将来の景気に対する不安感は強まっている。インバウンド需要の好調等もあり、総合すると景気は大きく変わらないものの、先行きには不透明感が残る。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・現場作業者の求人数は変わらないが、開発系の求人数はやや減少し始めている。
	▲	職業安定所（職員）	それ以外	・日々の生活に関連する物価の上昇が続いており、生活に段々とゆとりがなくなってきたとの理由から求職活動を行う高齢者が目立っている。円安による原材料価格の高止まりや更なる上昇を危惧する事業所の声も聞かれ、先行きを懸念した停滞感が払拭できない。
	×	—	—	—